

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課水産しまね振興室長 三浦 順	電話番号	0852-22-5740
----------	-------------------	------	--------------

事務事業の名称	しまねの魚消費拡大プロジェクト事業
目的	(1) 対象 漁業者、漁協、水産加工業者 (2) 意図 アジ、サバ等の多獲性魚類や未利用魚を有効活用した特産加工品の開発、消費拡大の取組を通して、魚価の向上としまねの魚の消費拡大を図る
事業概要	消費者ニーズに対応した競争力のある商品づくり、販売促進、魚食普及活動を推進し、水産物の需要増加を目指す

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 商品開発数	目標値		5.0				件
		取組目標値						
	式・定義 地さかなを利用して開発した商品数（試作品も含む）	実績値	5.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,986	3,662
うち一般財源(千円)	1,986	3,662

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

多獲性魚類や未利用魚の有効活用には、地元での一次加工処理等が必要であることは関係者の共通認識である。しかしながら、いざ実施するとなると新たな設備投資、人員不足等の問題が発生するため、一部の事業者の取組に限られてしまう。消費拡大には消費者ニーズに合った商品を開発していくことが必要であるが、併せて、開発した商品をどのように売り込んでいくのが重要である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

試作品の作成や魚食普及活動や販売促進活動への支援等の取組により「しまねの魚」の消費拡大に一定の貢献があったと考えられる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
社会経済的な要因の影響もあって依然として水産物の消費低迷が続いている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
子どもが魚嫌いであることが、家庭内での消費減の一因となっている。また、子どもが魚嫌いなのは、「骨がある」ことが原因の一つとなっている。
- ③原因を解消するための「課題」
子どもに骨がある魚に慣れてもらう必要がある。また、骨の無い或いは骨があっても食べられる商品の開発も必要と考えられる。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

子どもに骨のある魚に慣れてもらうため、給食を活用した取組を進めていく。特に自校式で給食を提供している学校給食では、ある程度臨機に対応できると考えられることから、しまねの魚を給食で提供する仕組みづくりをモデル的に行う。

9. 追加評価（任意記載）